

さぬきせきぶつ  
国指定史跡佐貫石仏の発掘調査について

## 1 発掘調査について

- (1) 事業名 佐貫石仏遺跡範囲確認調査
- (2) 調査目的 史跡範囲内容確認
- (3) 調査主体 塩谷町
- (4) 調査機関 公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター
- (5) 調査面積 2, 077 m<sup>2</sup>
- (6) 調査期間 平成30(2018)年9月～平成30(2018)年11月

## 2 佐貫石仏について

- (1) 所在地 塩谷町佐貫地内
- (2) 遺跡の時代 古代～近世
- (3) 遺跡の種別 磨崖仏・寺院跡
- (4) 仏像の種類 大日如来(だいにちによらい)
- (5) 仏像の規模等 像高約18m 南西向き
- (6) 国史跡指定年 大正15(1926)年

## 3 発掘調査の成果について

- (1) 塩谷町では史跡の保存活用計画に基づき、遺跡の範囲や内容を確認するための調査を平成28年度から実施しています。3年目となる今年度は石仏周辺の3か所を調査しました。

### (2) 平安時代の土器が出土

平安時代(9世紀)の土器(土師器坏:はじきつき)が出土しました。佐貫石仏が彫られた年代は、奥の院に納められていた銅板阿弥陀曼荼羅(どうばんあみだまんだら)の裏書などから平安時代末～鎌倉時代初頭との考えがありますが、この土器の出土は、今後研究を進めていくのにあたり、重要な資料となります。

### (3) 江戸時代の石敷を発見

石仏の左右両側の調査区で石敷を発見しました。

石敷は川原石と石仏が彫られている「観音岩」と同じ凝灰岩の割石で、大きさは径2～3cmから一辺50cmを超えるものとさまざまです。

石仏に向かって左側は、不動岩と五輪塔、阿弥陀如来坐像(あみだによらいざぞう)が彫られているアマンジャク岩、お稲荷様があるアモト岩などがあり、今回見つかった石敷はこれらの岩の間を縫うように作られており、神仏を巡るための道と考えられます。

石仏の右側には夫婦岩があり、この岩のまわりを回る道とみられる石敷が岩の周囲から確認されました。このほかに東へ続く石敷も確認され、平成29年度に確認されたお堂とみられる礎石建物に向かう道かもしれません。